

史 跡

上野国佐位郡正倉跡

上野国
佐位郡
家位
跡



伊勢崎市教育委員会

史跡上野国佐位郡正倉跡

編集・発行：伊勢崎市教育委員会

〒372-0036

伊勢崎市茂呂南町 5097-2

電話：0270 (75) 6672

はじめに

伊勢崎市上植木本町に所在する三軒屋遺跡は、平成14年から始まった発掘調査によって、古代佐位郡の役所跡であることが判明した遺跡です。役所の中でも税として集めた米などを収納する正倉院という施設が確認されています。その後の発掘調査で正倉院の規模や構造が明らかとなり、平成26年10月6日に三軒屋遺跡の一部が「上野国佐位郡正倉跡」として伊勢崎市で4例目の国指定史跡となりました。



古代の上野国



遺跡位置図

古代の日本

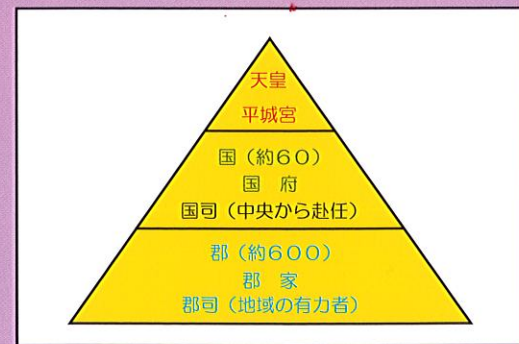
史跡上野国佐位郡正倉跡は今から1300年ほど前に造られた役所跡の一部です。ちょうど奈良時代が始まる直前から平安時代にかけてです。当時の日本は天皇中心の中央集権国家で、律令という法律をもとに国を治めていたため、律令国家とも言われています。

国家は、まず全国を60余の国にわけ、この国の中を郡という行政単位に分け、国には国府、郡には郡家という役所を造らせ、国府には国司、郡家には郡司という役人を配置し、各地方を監督させました。

★五畿七道と国郡制

古代の群馬県は東山道に属していた上野国と呼ばれていました。現在の伊勢崎市の大半は上野国14郡のなかの佐位郡に属していたことがわかっています。

東山道は近江・美濃・飛騨・信濃・上野・下野・陸奥・出羽からなり、都から東山道の各国を通過し陸奥の多賀城に向かう幹線道路が東山道駅路です。



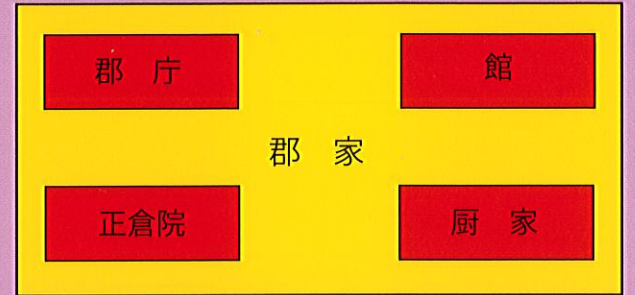
中央と地方の役所



東山道駅路（牛堀・矢ノ原ルート）

古代の役所

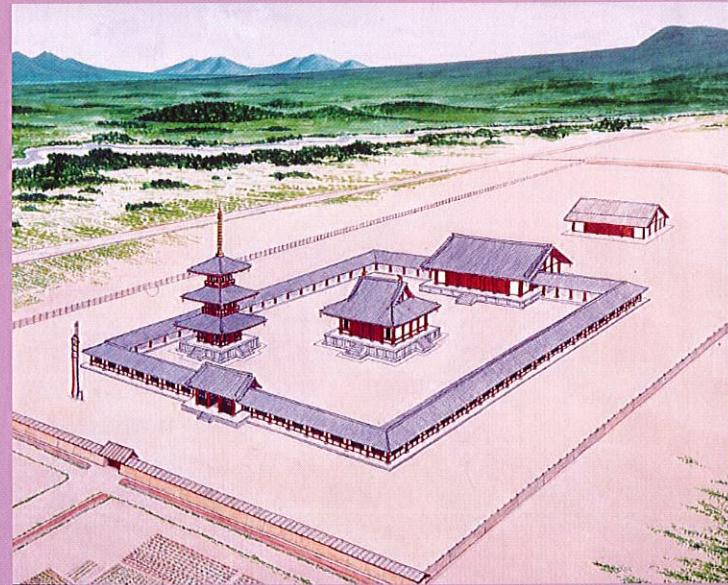
古代の郡役所にはさまざまな施設がありました。政務や儀礼を行う郡庁、税として集めた米の収納施設である正倉院、役人の宿泊施設である館、給食関連の施設である厨家が中心的なもので考えられています。三軒屋遺跡でみつかったのは、この中の正倉院であり、他施設も周辺に広がっていると考えられています。



郡家のしくみ

古代の佐位郡

古代佐位郡の役所は現在の上植木本町におかれていました。その周辺には同じ時期に造られた上植木廃寺という古代寺院がみつかっています。上植木廃寺は郡家から北に1kmの地点に建立され、広大な寺院地の中に塔や金堂、講堂などが確認されています。また、創建期の屋根瓦を焼いた瓦窯もみつかっています。古墳時代の後半に仏教が日本に伝来すると、これまで大規模な古墳を造っていた人々が、古墳にかわるものとしてしだいに寺院を建立するようになります。佐位郡でも地域の有力者が郡の役人になり、その人々は役所のかたわらに最新技術を駆使した古代寺院を建立したのです。このように古代の役所付近には古代寺院が造営されることが多く、役所と寺院は、律令国家を支える地方の政治・文化の中心施設であったことがわかります。



上植木廃寺伽藍想像図



金堂跡



塔跡基壇掘り込み地業



出土軒丸瓦



佐位郡家周辺では役所を起点とした古代道路の痕跡も確認されています。佐位郡正倉跡の西では南久保遺跡、東では大道西遺跡で古代道路跡が確認されています。大道西遺跡の道路は低湿地の中を走行しているため、道路を構築する際、役所や寺院でみられる特殊な工法を用い、路面を形成しています。それぞれの道路は郡家にむかって敷設されていることは明らかで、民衆はこのような道をとおり、税である米などを運んできたのかもしれません。

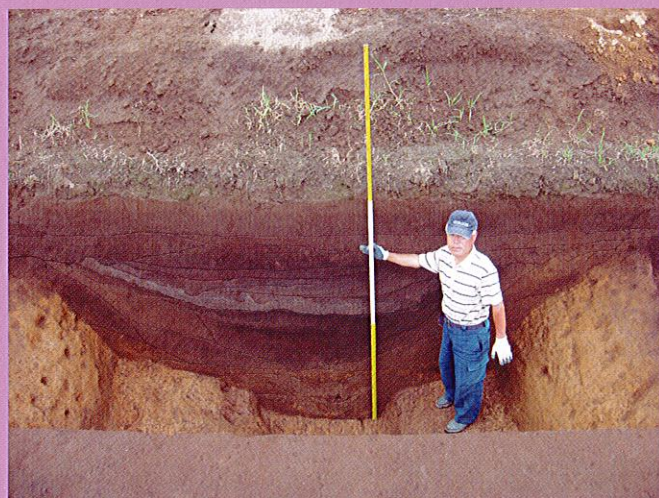


大道西遺跡・古代道路跡

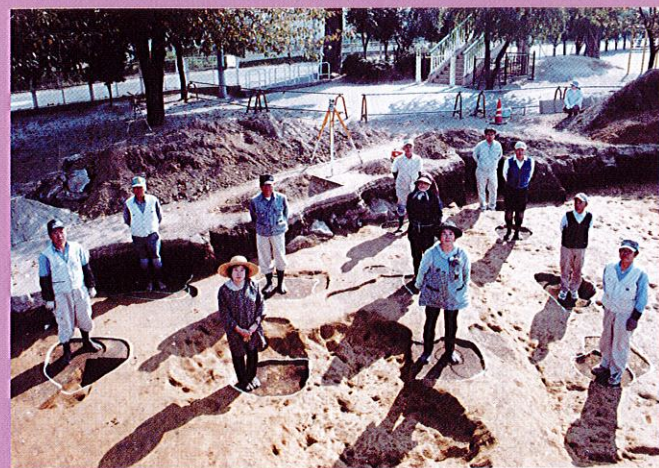
掘り出された正倉院

正倉は税として集めた米などを収納していた倉庫群の名称です。一般的には大溝などで囲われて、院を形成していることから正倉院と呼ばれています。

佐位郡の場合も幅3mの大溝によって区画された中に、非常に多くの倉庫が建設されていたことがわかっています。倉庫の多くは高床式ですが、低い床張りと考えられる一群も存在します。高床式倉庫は穂からはずして粳がついたままの米を、低床張り倉庫は稲穂がついたままのものを収納していたと考えられています。



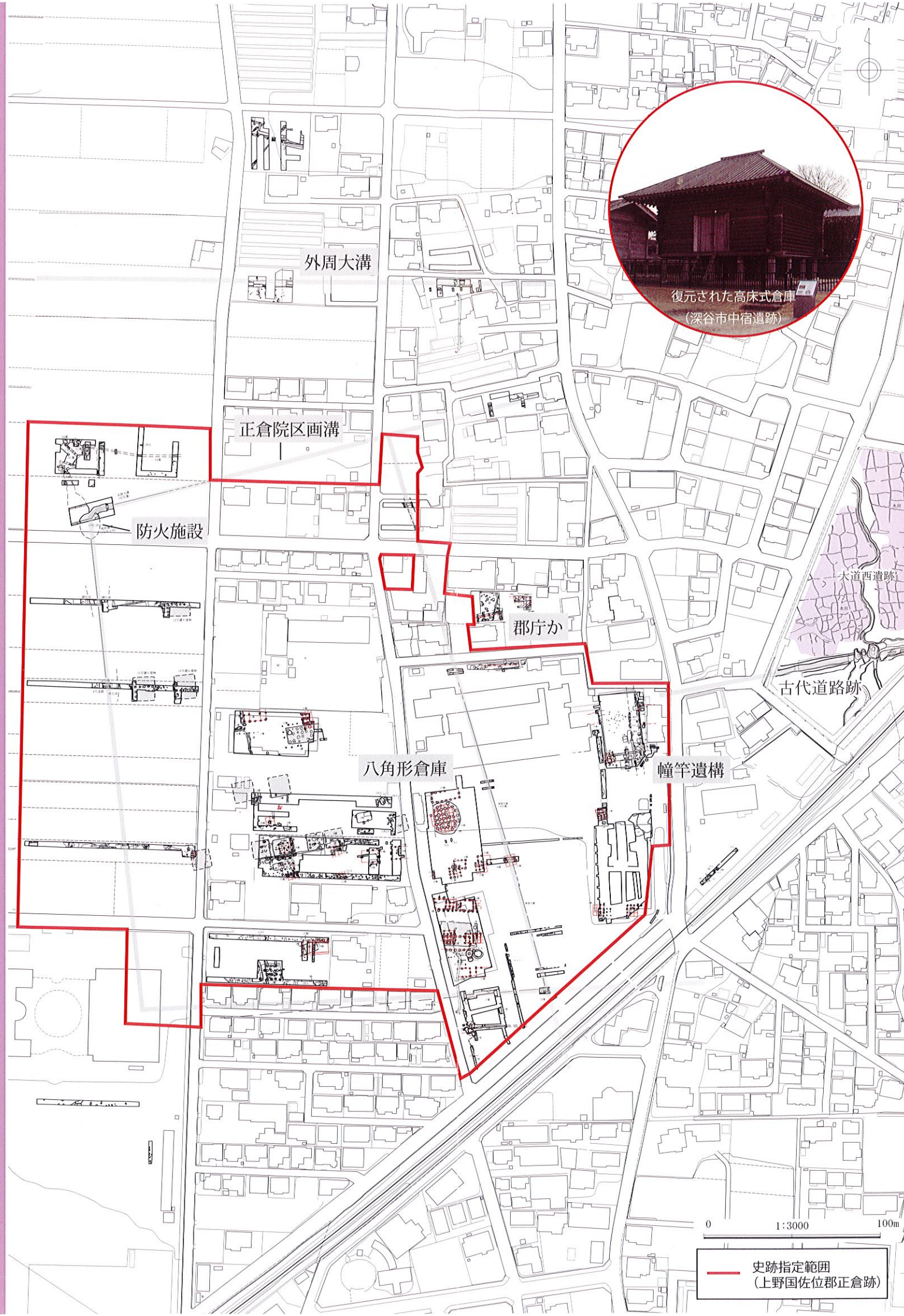
正倉院区画大溝



総柱式掘立柱建物



側柱式掘立柱建物



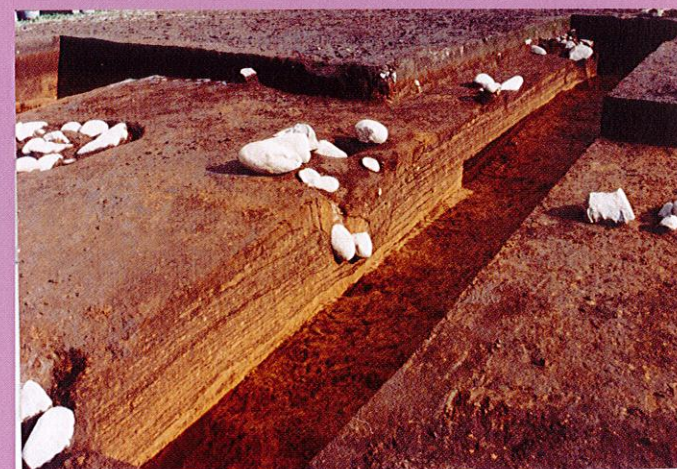
復元された高床式倉庫
(深谷市中宿遺跡)



4棟並んでみつけた礎石建物



大型礎石建物



礎石建物下層の地盤改良工事の跡

正倉には掘立柱建物と礎石建物という2通りの工法で造られています。古い段階は掘立柱で、時代が新しくなると礎石建物に変わっていきます。また柱配置から総柱式と側柱式が存在し、前者は高床式倉庫、後者は低床張り倉庫と考えられています。

佐位郡では7世紀後半に正倉院の建設が始まり、10世紀前半頃まで機能していたと考えられています。正倉院では50棟を超える倉庫がみつっていますが、建て替えを繰り返しながら、200年以上、存続していたことが分かってきました。

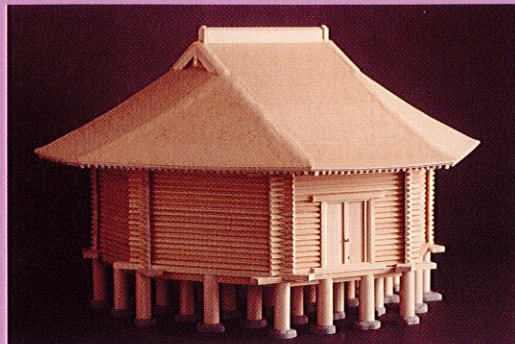
八角形倉庫と「上野国交替実録帳」

佐位郡正倉跡では全国で初めて八角形総柱式高床倉庫が検出されました。平成17年度の3次調査でみつかったこの建物は礎石建物で、円形に近い掘込み地業をとまっています。この建物は床面積182㎡で正倉遺構では最大規模をほこり、佐位郡正倉院の象徴的建物と考えられます。

また、上野国には「上野国交替実録帳」という文献史料が残されています。この中の佐位郡正倉の記載には「八面甲倉」とあり、調査でみつかった建物が文献に書かれた建物であることがわかりました。



八角形礎石建物



「八面甲倉」復元模型



「上野国交替実録帳」(国宝)

「上野国交替実録帳」は1030年に書かれた文書で、国司が交替する際に交わされた引継ぎ書です。この中には各郡の役所建物について記した諸郡官舎項や国分寺や定額寺などの寺院にかんする記載などがあります。諸郡官舎項には上野国14郡の郡家の記載がありますが、当時、壊れて無くなってしまった建物(無実)が書かれています。「実録帳」の記載と一致したことから、三軒屋遺跡が佐位郡の役所であることが確実にわかりました。

正倉院の附属施設



正倉院には大型の竪穴建物もみつかっています。これは正倉が置かれる直前のもので、他施設に向けた工房と考えられます。



法倉と考えられる大型倉庫や八角形倉庫の前面には斜め柱穴をとまう土坑が検出されています。同様の遺構は郡家の東入り口付近でも確認されており、斜めに柱を立てた幢竿と考えられます。これらは正倉院内における儀礼行為を示す遺構として重要です。

正倉院北西隅には大型の防火施設と考えられる土坑がみつかっています。

郡庁を探して



大型建物



柵列跡

現在、正倉院の調査は一段落し、郡庁などの他施設を確認するため調査を継続しています。平成27年度には小学校の北側で大型建物が確認され、郡庁が周辺にあった可能性が高まっています。周囲には掘立柱建物や柵列などもみつき、今後も調査を続け郡庁等の他施設の存在を明らかにしようと考えています。